

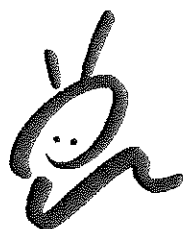
若手農業者が長期的な  
営農ビジョンを描くために



# 2018

JA Okinawa Youth

# PolicyBook



JA YOUTH

JAおきなわ青壮年部

# J Aおきなわ青壮年部 ポリシーブック 2018

## 目 次

---

- J A 青年組織綱領
  
- 「J A 青年部ポリシーブック」とは？
  1. 青壮年部の活性化及び盟友の新規加入促進について
  
  2. 離島農業について
  
  3. 多発する自然災害の対応にむけて
  
  4. 安定した農業経営への対策と販売力強化について

# J A 青年組織綱領

我々 J A 青年組織は、日本農業の担い手として J A をよりどころに地域農業の振興を図り、J A 運動の先駆者として実践する自主的な組織である。

さらに、世界的視野から時代を的確に捉え、誇り高き青年の情熱と協同の力をもって、国民と豊かな食と環境の共有をめざすものである。

このため、J A 青年組織の責務として、社会的・政治的自覚を高め、全国盟友の英知と行動力を結集し、次のことに取り組む。

1. われらは、農業を通じて環境・文化・教育の活動を行い、地域社会に貢献する。  
J A 青年組織は、農業の担い手として地域農業の振興を図るとともに、農業を通じて地域社会において環境・文化・教育の活動を行い、地域に根ざした社会貢献に取り組む。
1. われらは、国民との相互理解を図り、食と農の価値を高める責任ある政策提言を行う。  
人間の「いのちと暮らし」の源である食と農の持つ価値を高め、実効性のある運動の展開を通じて、農業者の視点と生活者の視点を合わせ持った責任ある政策提言を行う。
1. われらは、自らが J A の事業運営に積極的に参画し、J A 運動の先頭に立つ。  
時代を捉え、将来を見据えた J A の発展のため、自らの組織である J A の事業運営に主体的に参加するとともに、青年農業者の立場から常に新しい J A 運動を探求し、実践する。
1. われらは、多くの出会いから生まれる新たな可能性を原動力に、自己を高める。  
J A 青年組織のネットワークを通じて営農技術の向上を進めるとともに、仲間との交流によって自らの新たな可能性を発見する場をつくり、相互研鑽を図る。
1. われらは、組織活動の実践により盟友の結束力を高め、あすの担い手を育成する。  
J A 青年組織の活動に参加することによって、個人では得られない達成感や感動を多くの盟友が実感できる機会をつくり、このような価値を次代に継承する人材を育成する。

(注釈) 本綱領は、J A 全青協設立の経過を踏まえて「鬼怒川 5 原則」「全国青年統一綱領」の理念を受け継ぎ、創立 50 周年を契機に現代的な表現に改めるとともに、今後目指すべき J A 青年組織の方向性を新たに盛り込んだものである（平成 17 年 3 月 10 日制定）。

## 「ポリシーブック」とは？

### ～青年部の政策集～

J Aおきなわ青壮年部では、平成23年度より「ポリシーブック」の作成を開始しました。ポリシーブックを一言で表すと「青壮年部の政策集」となりますが、その作成にあたっては現在の政策を出発点とするのではなく、J Aおきなわ青壮年部の盟友一人ひとりが営農や地域活動をしていく上で抱えている課題や疑問点について、盟友同士で解決策を検討してとりまとめている点が特徴です。

また、そこには政策として要請することだけではなく、まず自分たちで解決に向け努力し、取り組むことが明記されています。

つまり、「自分たちの行動目標」と「積み上げによる政策要望」の両方を備えたものが青壮年部の「ポリシーブック」となります。

# 1. 青壮年部の活性化及び盟友の新規加入促進について

## 課題

- 人口減少、少子高齢化等により盟友数の減少が進んでいる。
- JA青壮年部活動の魅力や意義を伝えきれていないため、加入に躊躇する農業者がいる。
- 今後の経営参画に向け、協同組合へのより深い理解が求められている。
- 未加入の若手農業者に関する情報を得るためには、行政や関係団体と連携して取り組む必要がある。

## 解決策

### 個人・JA青壮年部としての取り組み

- ポリシーブックの活用などにより、個人及び組織全体が具体的な目標を明確にし、目標達成のための活動を充実させ、魅力ある青壮年部活動を創造、実践する。
- 新規就農者や近隣若手農家や兼業農家、女性農業者、農業青年クラブとのコミュニケーションの場を設置する。
- 農業や漁協などの団体や商・工業関連の青年組織と協力し農産物販売イベントなどを開催する。
- 農業だけでなく、漁業や商・工業関連の青年組織との交流を積極的に開催する。

### JAと一体となった取り組み

- 将来の農業者がいる関係学校や教育機関に対し、現場研修や訪問授業を実施し、青壮年活動を広くPRできる環境の整備。
- 新規就農者や近隣若手農家などにJAと一体となり、積極的に青壮年部への加入推進。
- JA広報誌やメディア、SNS等を利用した青壮年活動の情報発信の強化。

### 行政に提案・要望すること

- 新規就農者情報を共有し、JAや青壮年部主催の学習会などへの参加呼びかけによる交流や青壮年部加入の実施を提案する。
- 新規就農支援や後継者対策など、若手農業者の増加につながる政策の要望。
- 行政の広報誌等にJA青壮年部活動の取り組みを掲載して頂きたい。

## 2. 離島農業について

### 課題

- 肥料・農薬などの生産資材等の仕入や農畜産物出荷の輸送経費の増加。近年の燃料・輸送費高騰などにより手取りが下がる。
- 「島」という限られた中での規模拡大の難しさ。さらに売り先の市場が遠く、限られた作物しか作れない状況。
- 離島地域における国土の重要性が認識されていない。
- 離島においては、刈取り機械や人員不足により、牛の牧草が不足している。

### 解決策

#### 個人・JA青壮年部としての取り組み

- 新規盟友を増やし、盟友同士の会議等でそれぞれの離島農業についての問題意識の共有を行う。
- 共選・共販に努め、輸送経費の削減に努める。
- 予約購買、共同購入の比率を高めていく。
- 島の魅力を発信し、観光向けのブランド化を目指し、収益向上を図る。
- 生産資材を備蓄できる倉庫等の設置に取り組む。

#### JAと一体となった取り組み

- 離島に適した農産物の栽培の提案・指導を行い、販売方法、設備投資の検討。
- 耐候性ハウスの設置に対する支援や倉庫等の購入・設置費用に対しての助成や低金利での支援。

#### 行政に提案・要望すること

- 「農林水産物流通条件不利性解消事業」の継続及び離島から本島への輸送時についても助成の対象となるよう要望。
- 八重山地区における家畜、資材運搬用船舶の新造船を要望。

### 3. 多発する自然災害の対策について

#### 課 題

- 近年、自然災害が多発する傾向にあり、台風等の大規模災害や局地的な豪雨、竜巻、干ばつや長雨、温暖化等の気象変動が発生している。
- 台風の常襲地域である本県では、農業者が目指す定時・定量・高品質な農産物を安定供給する産地としての基盤がおびやかされている。  
(船舶の欠航による畜産飼料の供給不足、長期停電により営農再開の目途が立たない。)

#### 解 決 策

##### 個人・J A青壮年部としての取り組み

- 台風対策に加え、停電や塩害などの二次被害に対しても対策を講じる。
- 被災した盟友が営農再開できるよう協力する。
- 離島の畜産農家は船舶の欠航を想定し、飼料を備蓄する。
- 共済・保険等の理解を深め、加入を促進する。

##### J Aと一体となった取り組み

- 被害状況を把握し、緊急災害資金等の迅速な資金対応。
- 台風対策に伴う、設備導入の推進。(耐候性ハウス、防風ネット、発電機など)
- 船舶の欠航を想定し、生産資材等の確保。

##### 行政に提案・要望すること

- 農業に関連するインフラの速やかな復旧。
- 台風対策に伴う設備の導入。
- 港湾等に大規模な資材・飼肥料備蓄施設の設置。

## 4. 安定した農業経営への対策と販売力強化について

### 課題

- 市場価格が安定せず経営が安定しない。
- 営農効率化を図るため、新技術(LED電球や次世代農業機械等)の導入が必要だが、コスト高により導入にしにくい現状。
- 農畜産物の生産にかかる資材・肥料のコストが価格に転嫁することが十分できていない。

### 解決策

#### 個人・JA青壮年部としての取り組み

- 定時・定量・定品質を心がけ、営農指導員を活用し、共選・共販での安定した価格での取引を目指す。
- 予約購買、共同購入の比率を高め、自らの経営に対して営農効率化を図る。
- ファーマーズマーケットは、少量多品目での出荷、共撰・共販は単一品目出荷など、個人毎に経営スタイルの確立を目指す。

#### JAと一体となった取り組み

- 値決め、買い取り等による農産物の有利販売。
- 新技術を導入しやすい環境の整備。(低金利、挿入支援等)
- カット野菜等、加工用の野菜栽培の検討。

#### 行政に提案・要望すること

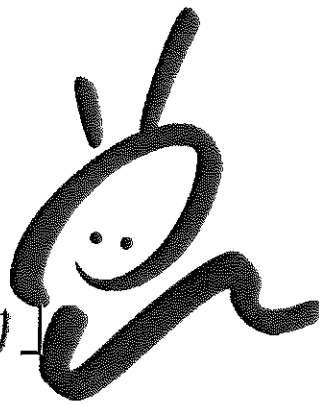
- 安定した農業経営のための補助事業の導入。
- ブランド力の強化と産地確立に向け、普及センターなどとの連携による沖縄独自の品種開発や低コスト実現に向けた技術開発などに努めるよう要望。
- 沖縄の農畜産物の魅力の発信。



# MEMO

「夢・希望 叶えて」

「行政・地域と協力」



若手農業者が長期的な  
営農ビジョンを描くために

---

**JA YOUTH**

「共助」